

ご入学、ご進級おめでとうございます。

そして、図書室にようこそ。ぜひ図書室を活用してください。

本って何でできてたの？



現在、図書室にある本は紙で出来ています。

ですが、昔は石、骨、木、竹、粘土、などに文字を書いていました。

紀元前3000年頃のメソポタミアでは、粘土版に文字を書いていました。

この粘土板のことを**クレータブレット**※といいます。 ※クレ：粘土

いっぽう、エジプトでは同じころ、パピルスという植物の茎から作られた紙が使われていました。

パピルスは、ローマやフェニキア(今のトルコやシリア)にも輸出されていました。

パピルスは折り曲げに弱いので、巻物にしました。



その他に「羊皮紙」にも文字が書かれました。羊皮紙は、紀元前 2500 年頃ペルガモン(トルコの古代都市)で開発されました。ペルガモンの王様が、ライバルであったエジプトのアレキサンドリアに負けない図書館を造ろうとしたところ、エジプトが対抗してパピルスの輸出を禁止したため、ペルガモンの名産であった羊やヤギの皮を利用して羊皮紙を開発したという逸話があります。

羊皮紙は2つに折ることもできたので、それまでは巻物だった本が今のような形へと変わりました。

しかし、動物の皮を1枚ずつ用意するので、値段が高かったのです。有名な『42行聖書』という本は、

1冊で160匹のヤギの皮が使われ、今の値段で1冊 750 万円~1000万円くらいしたといわれています。

そして、現在も使われている紙は、紀元前2世紀ころに、中国で発明されました。

日本への伝来は、610年に高句麗(朝鮮半島)の僧、曇徴(どんちゆう)によってもたらされました。

中国では、紙の材料として麻を使っていましたが、日本では楮(こうぞ)が使われ日本独自の和紙がつくられるようになりました。



ヨーロッパに紙が伝えられたのは、12世紀ころです。最初にスペインで製紙工場が設立され、ヨーロッパ全土に広がったのは、15世紀なかごろです。

なぜヨーロッパで紙が使われるようになるのに、時間がかかったのかというと、羊皮紙は高価だけれど使いやすかった、ということと、読書のできる人が少なく、書物の需要がなかったためです。



現在は、電子書籍をタブレットなどで読んでいます。

みなさんが今、授業で使っているのも**タブレット**ですね。「タブレット」とは、もともと「(持ち歩ける大きさの)板状の物体」を指す言葉だったそうです。

5000年の時を経て、**タブレット**という言葉が同じ用途で使われているって、なんだか不思議ですね。



参考図書

『本の世界をめぐる冒険』 ナカムラ クニオ：著 NHK 出版 2020 年刊

『本のれきし5000年』 辻村 益郎：著 福音館書店 1989 年刊

